

統合失調症患者の薬物療法に関する 処方実態調査（2020年）その2 —全国80施設の統合失調症入院患者における 持効性注射製剤の処方傾向について—

○医療法人へいあん 平安病院 高田憲一

精神科臨床薬学(PCP)研究会

鈴木貴子、佐藤康一、北川航平、宇野準二、加藤剛、梅田賢太、
天正雅美、三輪高市、野田幸裕、吉尾隆

第5回日本精神薬学会総会・学術集会
筆頭発表者の利益相反（COI）開示

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

倫理的配慮

本調査や解析では個人情報 を慎重に取り扱い十分な倫理的配慮を行った。

目的

精神科臨床薬学研究会（以下、PCP研究会）会員の所属する施設に入院している統合失調症患者について処方実態調査を行い薬物療法の実態を把握する。

本報告では、入院患者の持効性注射製剤（以下、LAI）の処方傾向を報告する。

方法

- 対象

調査の目的に賛同の得られたPCP研究会会員の所属する施設に入院中の統合失調症患者

- 調査日

2020年10月31日、2019年10月31日

- 調査項目

年齢、性別、身長、体重、血圧、心電図異常、血液、生化学、血糖、服薬回数、服薬指導実施の有無、抗精神病薬、抗パーキンソン薬、抗不安薬・睡眠薬、気分安定薬の投与剤数および投与量

(ブレクスピプラゾール、ルラシドンは解析から除外)

- 統計解析

比率の差の検定には χ^2 検定、3群間の平均値の差の検定には分散分析を行った上でTurkey法を用いて解析した。いずれも有意水準は5%とした。

調査対象 (入院 2020年)

施設数 80 施設

患者数 10,107 人
(男/女) (4,973/5,134)

平均年齢 59.1 歳
(min-max) (9-101)

平均服薬回数 3.2 回
(min-max) (0-9)

服薬指導実施率 29.8 %

LAI の処方率 (入院 2020年)

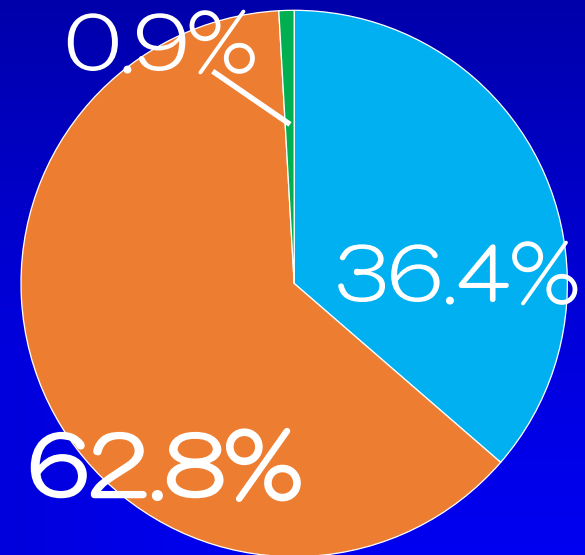
薬 剤 別

薬 剤	処方率 (%)
LAI全体	10.3
RLAI	1.0
PP	3.7
AOM	1.8
HD	2.6
FD	1.3

(n=10,107)

RLAI : risperidone long-acting injection
PP : paliperidone palmitate
AOM : aripiprazole one month
HD : haloperidol decanoate
FD : fluphenazine decanoate

世 代 別

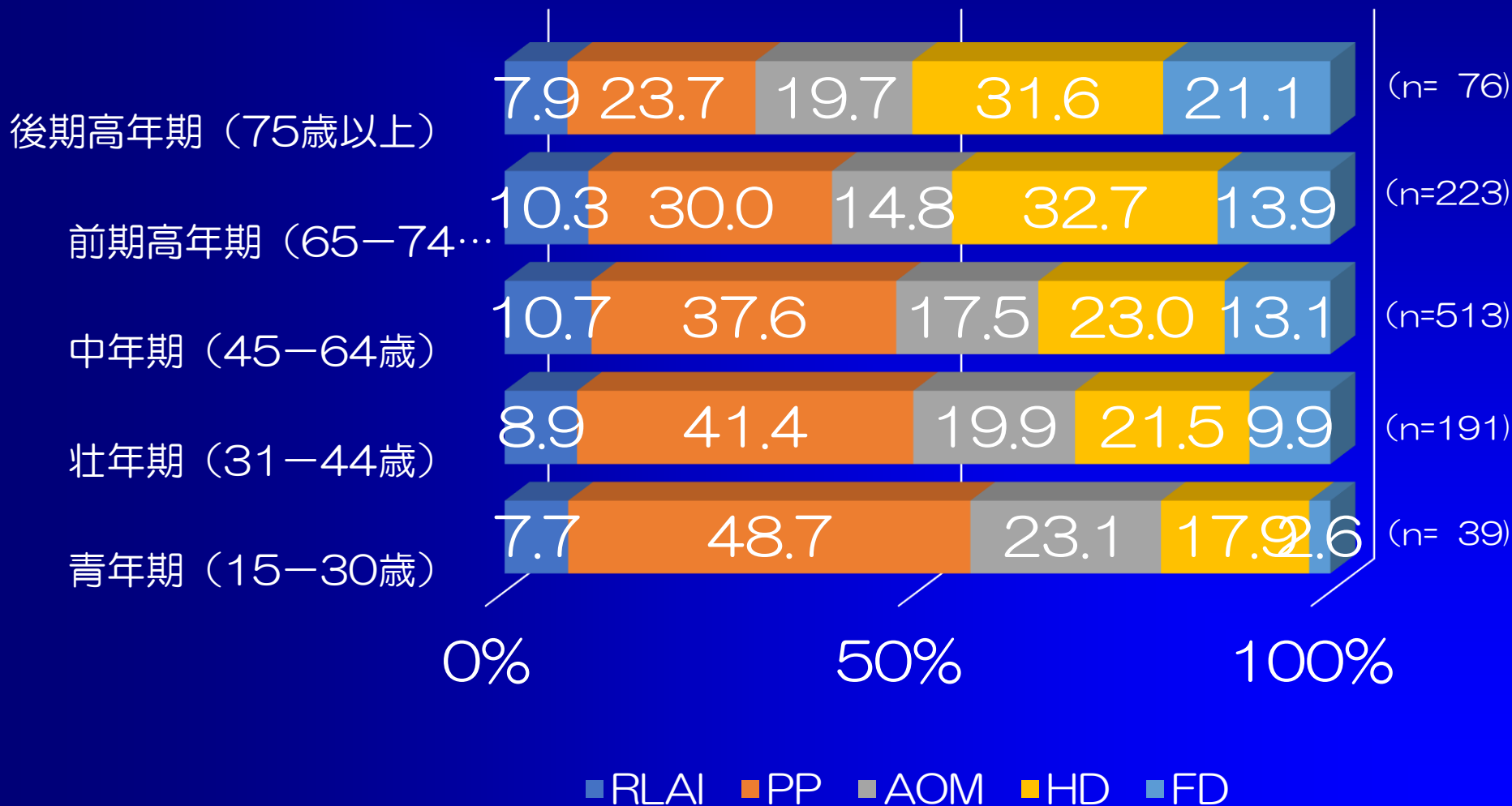


(n=1,042)

■ FGA
■ SGA
■ FGA+SGA

LAI の年齢層別処方状況

(入院 2020年)



LAI投与患者における向精神薬処方状況

(入院 2020年)

剤数 (剤) 投与量 (mg/日) 単剤処方率 (%)

抗精神病薬

2.1

983.9 (CP換算)

30.3

併用率 (%)

抗パーキンソン薬

0.3

0.8 (BP換算)

30.5

抗不安薬・睡眠薬

1.0

6.9 (DAP換算)

60.3

気分安定薬

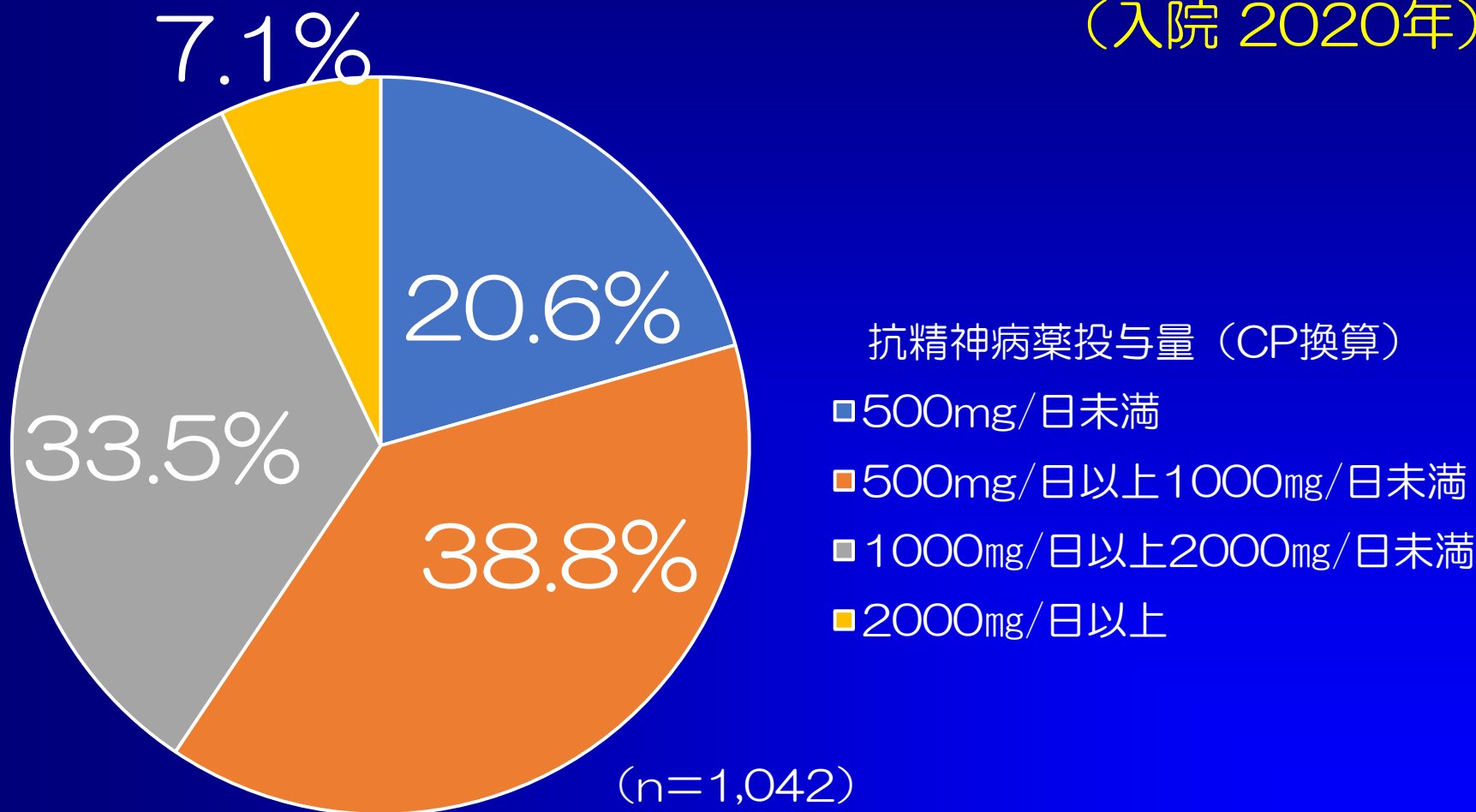
0.4

36.6

(n=1,042)

LAI投与患者における抗精神病薬投与量分布

(入院 2020年)



LAI単剤群、LAI + 経口抗精神病薬群、 経口抗精神病薬群 の比較

抗精神病薬

(入院 2020年)

LAI (n=292) LAI + 経口 (n=750) 経口 (n=8,342)

抗精神病薬投与量**
(CP換算mg/日)

488.6* 1,176.8 704.4

#

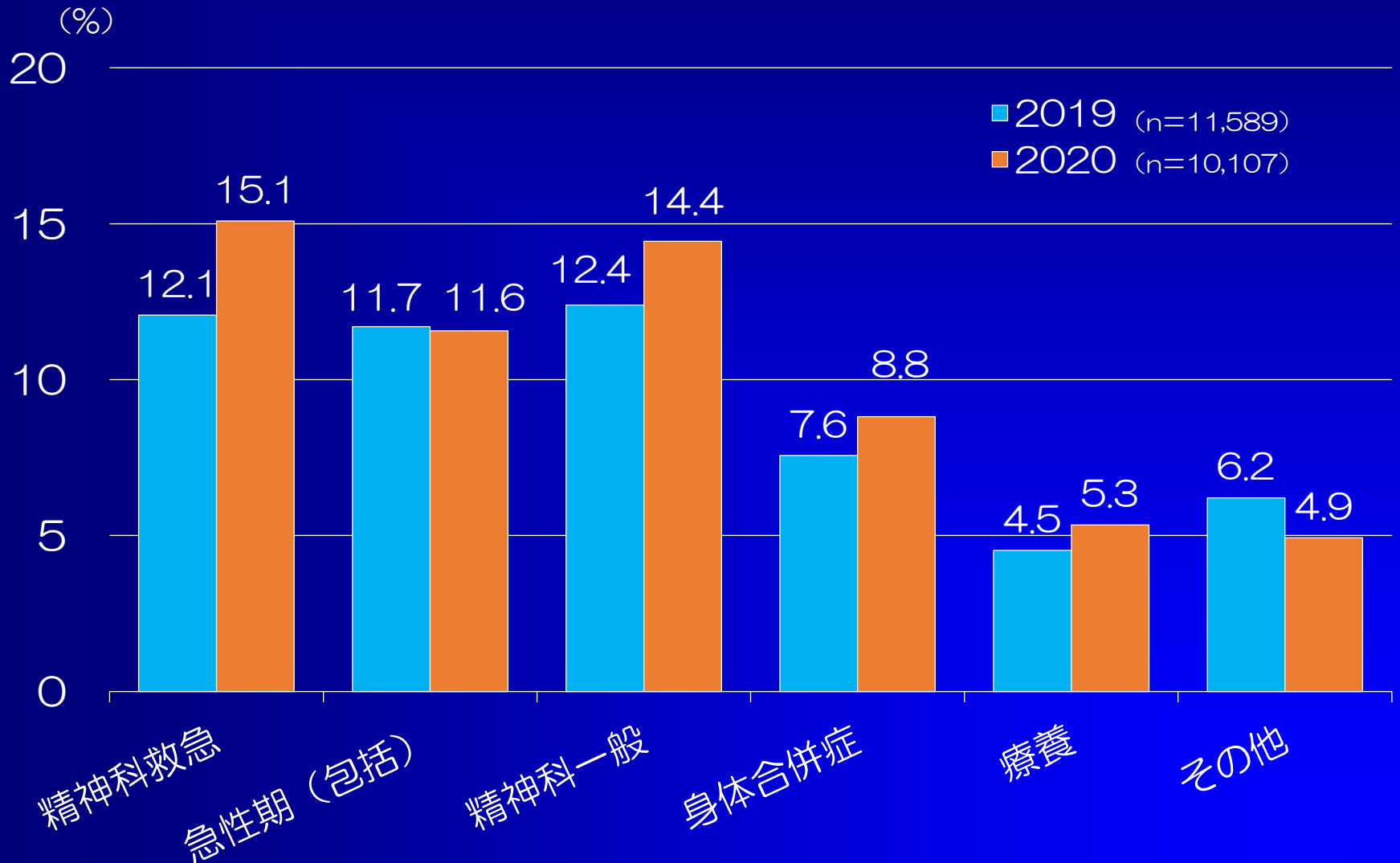
併用率 (%)	抗パーキンソン薬	11.3*	38.0	33.8
	抗不安薬・睡眠薬	38.0*	68.9	69.1
	気分安定薬	19.5*	43.2	37.1
心電図異常あり (%)		21.2	28.9	26.3
脂質代謝異常あり (%)		39.8	39.1	38.8

* χ^2 検定 (P<0.05)

**ANOVA (P<0.05)

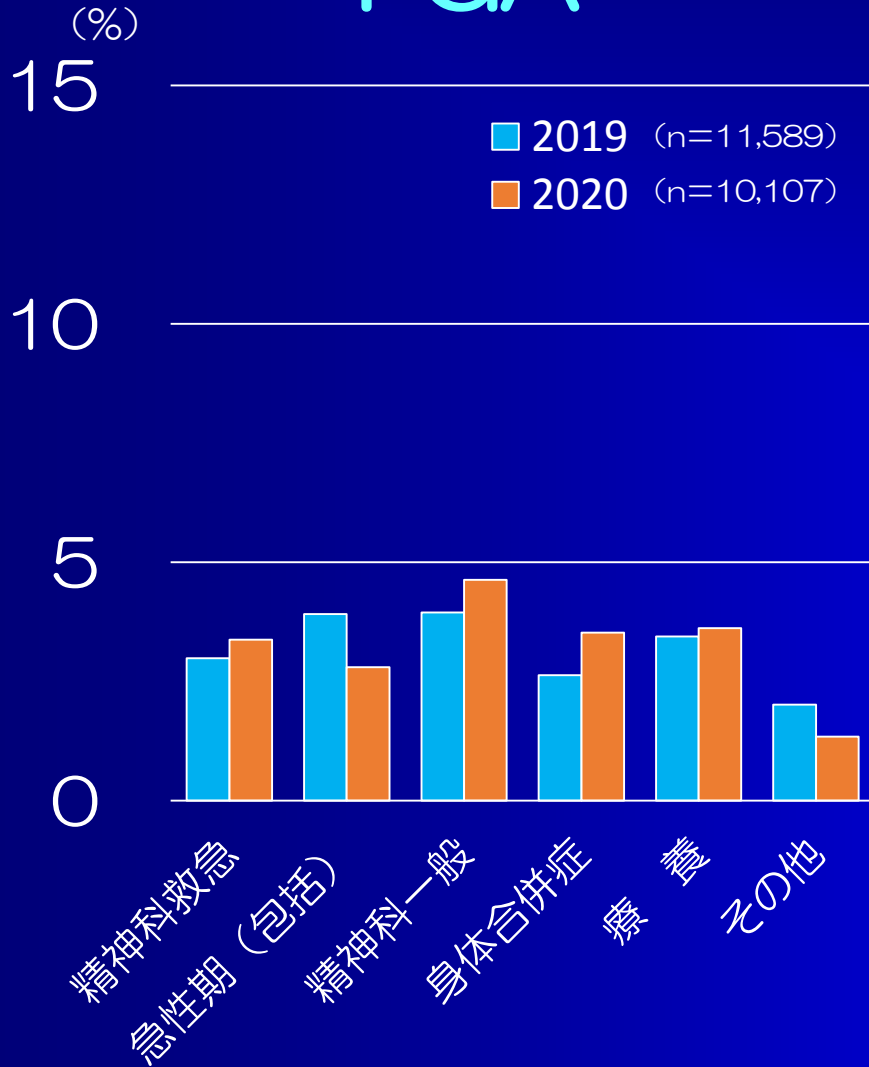
#Post-hoc turkey (P <0.05)

各病棟種別 における LAI処方率

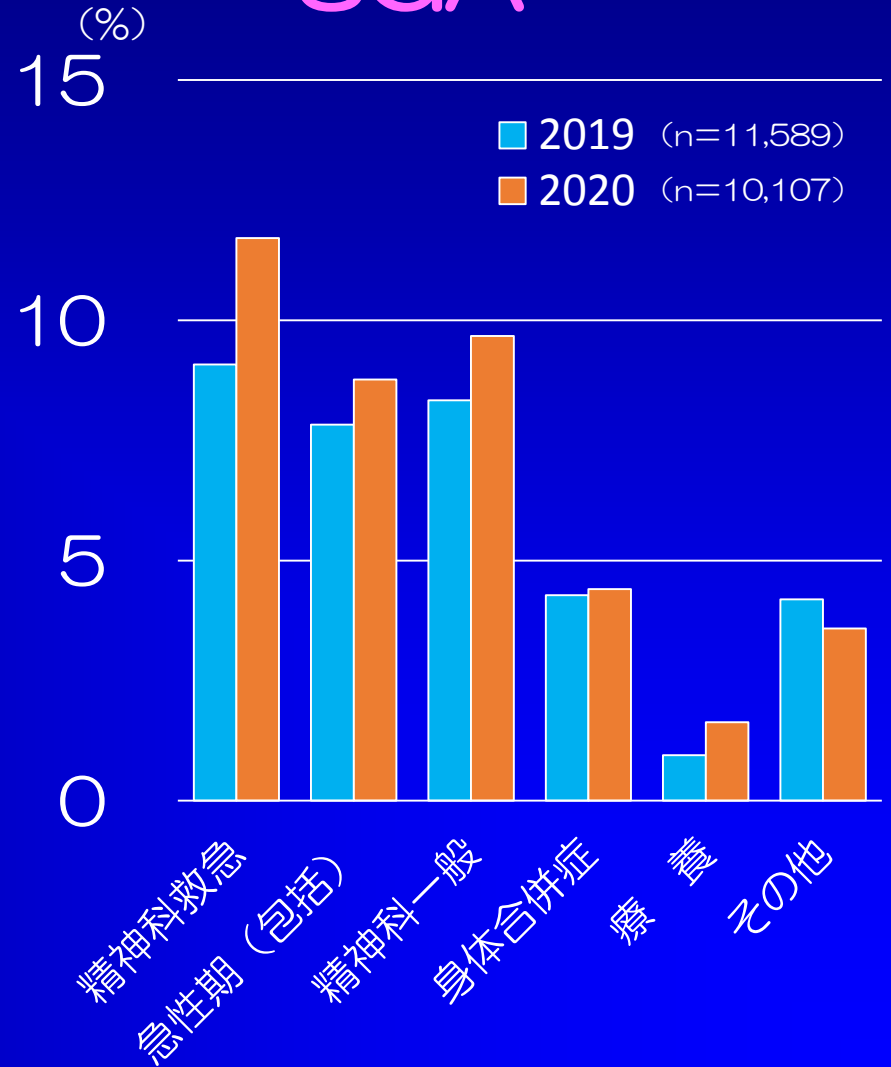


各病棟種別 における 世代別LAI処方率

FGA



SGA



結果

- LAIは入院患者の10.3%に投与されていた。薬剤別にみるとPPの処方率が最も高く、特に青年期、壮年期での処方率が高かった。一方、高年期、中年期においては、HDの処方率が高かった。
- LAI投与患者における単剤処方率は30.3%であり、抗精神病薬平均投与剤数は2.1剤、抗精神病薬平均投与量（CP換算）は983.9 mg/日であった。投与量（CP換算）が1000mg/日以上の患者は40.6%を占めていた。
- LAI単剤群、LAI+経口抗精神病薬併用群、経口抗精神病薬群の比較では、LAI+経口抗精神病薬群は、他の2群に比べ、抗精神病薬投与量が有意に多いことが確認された。
今回の調査では心電図異常、脂質代謝異常に関し、3群間で有意差は認められなかった。
- LAI単剤群は、抗精神病薬投与量および抗パーキンソン薬、抗不安薬・睡眠薬、気分安定薬の併用率が有意に低かった。
- 病棟別でみてみると、精神科救急、精神科一般、身体合併症、療養病棟での処方が増加した。

考察

- 今回の調査で、LAIを単剤で処方されている患者はLAI+経口抗精神病薬併用群、経口抗精神病薬群と比べ抗精神病薬投与量および抗パーキンソン薬、抗不安薬・睡眠薬、気分安定薬の併用率が有意に低かった。
このことから、LAIによる治療が多剤大量処方の是正に寄与することが示された。
- 病棟別では精神科救急病棟、精神科一般病棟で処方が増加していた。また、療養病棟においても若干処方が増加しており、これは、令和2年度の診療報酬改定において、持続性抗精神病注射薬剤治療指導管理料が精神科療養病棟でも算定が可能となった事により、それまでの内服治療からLAI、特にSGAへの切り替えが進行し、入院治療から地域医療への移行が促進されているためと推測される。